

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (かがやき特別支援学校)

1 目指す姿

<p>(1) 目指す学校像</p>	<p>医療及び福祉機関と連携した教育環境のもとで、子どもたちが学びあい、教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子どもたち自身が自分の願いや目標を達成できるよう指導・支援する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○隣・併設する病院と連携し、病院の多職種（医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等）と連携した「チームかがやき」として入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。 ○本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育・肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。 <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院（以下、三重病院）・三重大学医学部附属病院小児科病棟（以下、三重大学病院）との連携による病弱虚弱教育の拠点校</p> <p>【草の実校】 三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携による肢体不自由教育の拠点校</p> <p>【あすなる校】 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携による発達障がい支援の拠点校</p>
<p>育みたい児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切にする子ども ○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども ○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども <p>【緑ヶ丘校】 一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切にし、確かな学力を身につけ、自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。</p> <p>【草の実校】 一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。</p> <p>【あすなる校】 一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</p>
<p>(2) ありたい教職員像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○隣・併設する病院と緊密に連携し、病弱教育・肢体不自由教育、および発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、入院する児童生徒の想いに共感し、寄り添う姿勢で、授業改善に積極的に取り組んでいる。 ○本県の病弱教育・肢体不自由教育および発達障がい支援の中核となる学校の教員として県内の特別支援教育を推進するという使命感をもち、3校共通の校務分掌組織（指導部・運営部・支援部で構成される3部体制）のもとで同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。 ○特別支援学校の教職員として、子どもたち一人ひとりの実態に応じた指導・支援を誠実・丁寧に進めることで児童・生徒及び保護者・関係者からの信頼に応えるとともに、高い人権意識と共感的な態度で真摯に教育活動に取り組んでいる。 <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院・三重大学病院の小児科病棟との連携</p> <p>【草の実校】 医療センターの整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟との連携</p> <p>【あすなる校】 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p><児童生徒> ○毎日元気に登校し、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。 ○「わかる授業」に基づく学力の保障や退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。 <保護者> ○退院後の復籍、進学に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。 ○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる <前籍校> ○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復帰を期待している。</p>	
<p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> ○復学時等に学習進度で遅れないこと <前籍校> ○治療後の円滑な復籍 <病院> ○治療に有効に寄与する学校生活の充実と情報共有 ○支援の共通理解、役割分担の明確化 <関係諸機関> ○退院後、地域での生活にスムーズ移行する上で必要となる情報の共有 ○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供 ○生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> ○見守りや教育活動に対する理解と協力 <前籍校> ○支援情報の共有 <病院> ○医療情報等の共有と密接な連携 ○教育環境・内容の充実に係る理解と協力 <関係諸機関> ○退院後、地域生活を支える上で必要となる支援の情報提供と役割の分担 ○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援 ○就労についての理解と就業体験の機会の増加</p>
<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>・コロナ禍の中、小中学校ではオンライン授業が出席として認められているので、三重大学病院に入院する高校生への支援についても出席や単位履修につながるようになるとよい。 ・緑ヶ丘校で進めている高等学校への発達障がい支援について、子ども心身発達医療センターの外来でも多くの高校生に対応していることから、あすなろ校との連携がより強化できるとよい。 ・心が傷ついて病院に入院している子どもにとって教員との相性は非常に重要なことから、教員の資質向上とともに、難しいと思うが教員の教科別複数配置など体制面で配慮いただきたい。 ・草の実校のセンターオブセンターの役割を十分に発揮していくための人的配置や三重大病院に入院する草の実校在籍の児童生徒に係るセラピー等の連携強化が必要になっている。 ・病院に入院する子どもたちが安心して学習できる環境が不可欠であり、入院のタイミングは様々ではあるが、必要な教員数の配当を働きかけるなど県教委としっかり連携してもらいたい。 ・地域との連携のあり方については学校も病院もしっかり検討していくとともに、学校と地域の相互の情報発信等によって接触機会を増加させるなど具体的な取組を進める必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。</p> <p>○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフ等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○隣・併設する病院と連携した「チームかがやき」として機動力のある支援体制を構築し、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、HPや理解啓発用冊子を利用して医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○本・分校3校で運営するスケールメリットを活かし、3校が連動した一体感のある校務運営（指導部・運営部・支援部の3部体制）を進めることで、効率的・合理的な運営に努めるとともに時間外労働時間の削減につなげる必要がある。</p> <p>○学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続するとともに、新たに設置した「学校信頼向上委員会」の運営を通して全教職員にコンプライアンスの徹底を浸透させることで県民からの学校教育に対する信頼回復を図る必要がある。</p> <p>○教職員が自ら学び生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、職員満足度の向上を図る必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○多様な教育的ニーズへの対応</p> <p>【3校共通】 児童生徒の病状や学習状況を転入時に丁寧に把握した上で、病院に入院する児童生徒であるという背景や個々の病状を十分に理解したうえで、児童生徒の想いに寄り添った教育活動を行い、ICT機器の活用等も視野に入れるなど今後の復籍を見据えた丁寧な支援を進める。</p> <p>【緑ヶ丘校】 児童生徒の原籍校と緊密に連携し、授業進捗を確認しながら学力保障を着実に進めるとともに、病状に応じて柔軟に対応できるオンライン教育について引き続き研究を深め、実践につなげる。</p> <p>【草の実校】 三重病院や医療センターとの緊密な連携により肢体不自由のある児童生徒の発達段階を踏まえた系統的な教育について研究し、ICT機器の活用を含め、実践につなげる。</p> <p>【あすなる校】 医療センターとの連携により、発達障がい者の特性に応じた指導を丁寧に進めるとともに、個別の指導計画に基づき、教職員が課題を共通理解したうえで統一感のある指導を進める。</p> <p>○前籍校への復籍支援</p> <p>【緑ヶ丘校】 入院期間が多様な中、三重病院や三重大学病院、前籍校等と入院直後から緊密に連携して、児童生徒や保護者の安心感につながる復籍支援を進める。</p> <p>【草の実校】 医療センターや前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継を着実に進め、円滑な復籍支援を進める。</p> <p>【あすなる校】 医療センターや前籍校と連携し、個々の児童生徒に応じた支援情報の引継を着実に進め、円滑な復籍や進学につながる支援を進めるとともに、退院後の児童生徒の状況把握に努める。</p> <p>○センターオブセンター機能の発揮</p> <p>【緑ヶ丘校】 三重病院・三重大学病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、三重大学病院に入院する高校生の授業空白に対する支援、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。</p> <p>【草の実校】 医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校の特に肢体不自由特別支援学級に向けての支援の充実を図る。</p> <p>【あすなる校】 医療センターと連携した発達障がい支援の拠点として、県内の特別支援学校との協働により小中学校等への支援の充実を図る。</p>
------	---

○3部体制による組織的・効率的な校務運営【3校共通】

本・分校3校で学校運営にあたるスケールメリットを活かし、3部体制（指導部／運営部／支援部）による校務運営のいっそうの効率化を図ることで時間外労働時間の削減につなげる。

○コンプライアンスの徹底【3校共通】

「学校信頼向上委員会」を定期的に開催し、不祥事防止の取組を計画的に進めるとともに、本校で作成した「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的実施し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。

○働きやすい職場環境づくり【3校共通】

教職員が達成感や充実感を共有できる職場環境作りを進める中で職員満足度の向上を図るとともに、教育実習や介護等体験、学生ボランティア等の積極的な受入によって地域資源の活用に着目した教職員の意識の活性化を図り、あわせて人材育成の場とする。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
多様な教育的ニーズへの対応	<p>【緑ヶ丘校】 児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導体制の充実を図る。</p> <p>【草の実校】 個別の指導計画を丁寧作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。</p> <p>【あすなる校】 個別の指導計画に基づく統一感のある指導によって、児童生徒の安定した学校生活につなげる体制の充実を図る。</p> <p>【3校共通指標】 <活動指標> 児童生徒の授業進度や病状等の特性を考慮した教育の推進 <成果指標> 児童生徒及び保護者対象の「学校生活アンケート」結果に「本校の教育支援に満足している」と回答した割合：90%以上</p>	<p>【3校共通】「学校生活アンケート」満足度</p> <p>【緑ヶ丘校】 成果指標：達成 児童生徒：92% 保護者：97%</p> <p>【草の実校】 成果指標：ほぼ達成 児童生徒：100% 保護者：88%</p> <p>【あすなる校】 成果指標：ほぼ達成 児童生徒：80% 保護者：93%</p>	
前籍校への復籍支援	<p>【緑ヶ丘校】 スムーズな復籍に向けて支援のプロセスを常に見直し、前籍校への病状の理解を促進する。 <活動指標> 復籍支援パンフレットの活用による病弱児に対する理解啓発の深化 <成果指標> 復籍支援パンフレットの活用による前籍校への周知：全在籍児童生徒の原籍校</p> <p>【草の実校】 関係者会議等の機会に児童生徒の支援のポイント等を伝え、教材を提供することで、スムーズな復籍につなげる <活動指標> 現在使用している教材・教具を指導方法とセットで原籍校に提案するなどの情報提供 <成果指標> 復学の際の前籍校への教材教具の提供：全在籍児童生徒の原籍校</p> <p>【あすなる校】 関係者会議等の機会に児童生徒の特性や学習状況を伝えることで、発達障がい支援の理解を深め、よりスムーズな復籍につなげる。 <活動指標> 前籍校に対する支援のポイントの伝達や教科指導等で活用している教材の提供による支援の強化 <成果指標> 前籍校へのアンケートで、提供した教材の活用について「活用できた」と回答した割合：75%以上</p>	<p>【緑ヶ丘】 復籍支援パンフレットを活用した周知 成果指標：達成 100%（83人72校）</p> <p>【草の実校】 在籍児の前籍校への教材教具等情報提供 成果指標：達成 100%（9人3校）</p> <p>【あすなる校】 提供した教材等が活用できた割合 成果指標：達成 84%（9校/11校）</p>	

<p>センターオ ブセンター 機能の発揮</p>	<p>【緑ヶ丘校】 ○三重大学病院に入院中の高校生に対するICT機器を活用した学習支援のさらなる充実を図る。 <活動指標>オンライン授業の充実及び在籍校との連携強化 <成果指標>1人あたりのオンラインの授業の実施：10回以上 ○高等学校における発達障がい支援の組織的な展開の拡大 <活動指標>発達障がい支援員と連携した高等学校における発達障がい支援の一層の強化 <成果指標>本校地域支援コーディネーターの発達障がい支援員との帯同による支援：15校以上</p> <p>【草の実校】 ○医療センターの専門家との連携に基づく医療・教育支援システムを周知する。 <活動指標>支援システムを説明したリーフレットの作成と活用 <成果指標>市町立小中学校の肢体不自由特別支援学級への周知：全設置校 ○発達水準別に整理した教材教具の使用目的別・使用方法別の情報を発信する。 <活動指標>整理した教材教具のホームページ等による情報発信 <成果指標>ホームページに掲載する教材教具の更新回数：年10回以上</p> <p>【あすなろ校】 ○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。 <活動指標>医療センター及び県立特別支援学校と連携して実施する発達障がい支援件数の拡充 <成果指標>小中学校等への発達障がいに係る支援を行ったのべ数：50校以上 ○小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援に係る各種研修の実施 <活動指標>発達障害のある児童生徒への授業実践に基づく実践報告会の開催 <成果指標>小中学校教員および県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計：150名以上</p>	<p>【緑ヶ丘校】 ○オンライン授業の実施回数 成果指標：達成 （1人あたり15回実施） ○発達障がい支援員に帯同した高等学校訪問 成果指標：達成困難 （5校14回） ※コロナ禍で訪問見合わせにより減少</p> <p>【草の実校】 ○支援リーフレットの作成 成果指標：達成予定 （年度内に配信） ○教材教具のHP上での情報発信 成果指標：達成 （事例3、教材54）</p> <p>【あすなろ校】 ○小中学校への発達障がい支援のべ学校数 成果指標：達成困難 （30校/50校） ※コロナ禍で訪問見合わせにより減少 ○発達障がい実践報告会（8/25）をオンライン開催 成果指標：達成 （参加者総計151名）</p>	
----------------------------------	--	--	--

改善課題

多様な教育的ニーズに対応するため、3校とも本人・保護者や前籍校、病院・関係機関と緊密に連携し、ニーズの把握に努めたことで一定成果指標を達成できたことから、今後もより積極的に連携を図り丁寧な指導を進めたい。あすなろ分校については児童生徒自身のコミュニケーションスキルに依拠する面もあることから教職員と児童生徒との人間関係の構築を引き続き丁寧に進めるよう心がけていきたい。

前籍校への復籍支援としては、3校が共通する方法で取組を進めていることで、市町の小中学校等にも一定の理解が図られつつあることから、今後も前籍校との連携の中で周知し、有効な支援方法を模索し続けたい。

センターの機能については、病弱、肢体不自由、発達障がいの各分野における3校の専門性を活かした地域支援を展開できつつあるが、コロナ禍によって対象校への訪問が十分に実施できず、特に小中学校や高等学校を対象とした訪問による発達障がい支援については、当初設定した目標の達成に至らなかった。代替策としてオンライン活用等も模索したが、児童生徒の実態に基づく相談には学校訪問のニーズが高いことから、今後の感染症の動向を見極めながら支援方法を工夫するなどして推進していく必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>組織的・効率的な校務運営による働き方改革の推進</p>	<p>【3校共通】 本・分校3校で運営できるスケールメリットを生かし、より組織的・効率的な学校運営に努めるとともに、教職員全体の業務内容を見直し、改善を図ることで時間外労働時間の削減、年休取得日数の増加など、働き方改革を推進する。 <活動指標> 定期的な管理職会議及び主幹教諭を中心とした3校会議の精選による業務改善（特に教職員の働き方改革に留意）に向けた継続的な検討 <成果指標> ○1人当たりの月平均時間外労働時間：30時間以下 ○年360時間を超える時間外労働者の人数：0人 ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ○1人当たりの年間休暇取得日数：昨年度比1日増 ○定時退校日に退校できた教職員の割合：100% ○会議の効率化（勤務時間内の会議終了）：100%</p>	<p>【3校共通】 成果指標：ほぼ達成 年360時間超：0人 月45時間超：0人 会議終了：100% 【緑ヶ丘校】 時間外平均：4.7h (R2:4.2h) 休暇取得平均：17.0日 (R2:16.9日) 定時退校：95% 【草の実校】 時間外平均：4.8h (R2:10.7h) 休暇取得平均：17日 (R2:19.0日) 定時退校：90% 【あすなる校】 時間外平均：5.9h (R2:9.9h) 休暇取得平均：13.7日 (R2:17.4日) 定時退校：90%</p>	
<p>コンプライアンスの徹底</p>	<p>【3校共通】 ○「学校信頼向上委員会」の定期的な開催及び「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用により教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。 <活動指標> ①学校信頼向上委員会の企画する不祥事根絶に向けた研修等の実施 ②全教職員によるセルフチェックの実施 <成果指標> ①不祥事根絶に向けた研修等の実施回数：毎月 ②セルフチェックリストに基づく注意喚起：毎学期</p>	<p>【3校共通】 ○不祥事根絶に向けた研修会の毎月実施 成果指標：達成 信頼向上委員会：5回 校内研修会：10回 ○毎学期のセルフチェック実施 成果指標：達成 （各学期実施）</p>	
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>【3校共通】 教職員全体の業務内容を見直し、改善を図ることで業務の平準化を図り、生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。 <活動指標> 本校作成の「教職員満足度アンケート」の実施 <成果指標> 同アンケートにより「日々の仕事にやりがいを感じ生き生きしている」と回答した教職員の割合：70%以上</p>	<p>【3校共通】 ○やりがいを感じる教職員の割合 成果指標：達成 【緑ヶ丘校】 72.8% 【草の実校】 73.7% 【あすなる校】 70.6%</p>	
<p>改善課題</p>			
<p>3校の組織的・効率的な校務運営による働き方改革については、従前から精選してきた業務の統合・共通化により、時間外労働時間の縮減など一定成果指標の達成に至った。一方で年休取得や定時退校実施については前年度より停滞した面があり、引き続き教職員が意識して業務が進められるよう取組に工夫が必要である。 コンプライアンスの徹底については従前からの取組に加え、新たに設置した「学校信頼向上委員会」を機能させることで、校内研修の充実が図れたため、今後もより組織的で緊張感のある学校運営を進めていきたい。 働きやすい職場環境づくりについては、教職員満足度調査（やりがいを感じる教職員の割合）において一定成果指標を達成することができたため、引き続き教職員がやりがいを感じられる職場風土の醸成に努めたい。</p>			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の中、全教職員が感染症対策を徹底いただいた結果、1年間を通して通常通りの授業を遂行できたことに感謝する。・コロナ禍の影響もあってか、不登校の子どもが急増している。中には「勉強はしたい、オンラインなら学習できる、塾なら行ける」という子もおり、発達障がいの有無は別にしても精神的に脆弱な子が多い。こうした不登校の子どもたちに対して、かがやき特別支援学校でどういった対応ができるか考えていただきたい。・不登校への対応も含め、子どもが在籍する小中学校をサポートすることで一定の改善は図れるはずである。かがやき特別支援学校のセンターオブセンターの機能は非常に意味あるものであり、人材育成も進んでいるが、現状では対応している教員に限られている。人員の拡充を是非ともお願いしたい。また全県下への支援を考えると地域ごとに支援の中心となる学校が必要であることも検討いただきたい。・肢体不自由部門である草の実校のセンター的機能として、病棟のセラピストに教員が帯同して地域支援等を実施している。セラピストとは異なる教員としての立場からのアドバイスは効果的であり、地域支援を充実させるために草の実校の教員の確保にも配慮いただきたい。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・入院状況下であり多様な教育ニーズを示す子どもたちが安心して学び、スムーズに復学できるよう、かがやき3校がより一体的に学校運営できる仕組みを整理し、前籍の小中学校や高等学校と連携を深めていく必要がある。・センターオブセンター機能に大きな期待が寄せられる中、病弱、肢体不自由、発達障がい等の指導に係る小中学校や高等学校への訪問等による支援を強化するとともに、HPや理解啓発用冊子を利用して積極的に情報発信する工夫を試みるなど、コロナ禍で足踏みした部分を補い、機能充実を図る必要がある。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・3校が連動した校務運営については各校の校務分掌の共通部分をさらに整理し、効率的・合理的な学校運営に努めることで、時間外労働時間の削減など実効性のある働き方改革につなげていきたい。・コンプライアンスについては「学校信頼向上委員会」の活動を中核に据えることで校内研修のさらなる充実を図り、よりブラッシュアップした形で「信頼される学校であるための行動計画」を推進していきたい。・3校の教職員満足度がより高次に維持できるよう、面談等を通して各教職員が意欲的、主体的に働ける目標の設定について共有を図るとともに、風通しの良い職場風土の醸成に努めたい。